

三宅林業

調査団体名 : 三宅林業
設立年 : 1978(昭和53)年
団体URL :
活動拠点 : 岐阜県恵那市串原木根3399
取材日 : 2014年 11月 21日

団体代表者名 : 三宅隆美
対応してくれた人の名前 : 三宅隆美
調査員 : 丹羽健司、洲崎燈子
レポート作成者 : 洲崎燈子

活動内容

林業(伐採・搬出)と建築、製材、ストーブ用の薪の生産を行っている。代表の三宅さんは林業の一人親方で、必要に応じて人を雇って作業をしている。建築はもう1人のメンバー、大工の松井瑞穂さんが担当している。

林業: 山主と契約を結んで行っている。山づくりにあたっては、今お金が欲しいか、孫の代にいい木を残すのかといった、山主の意向を確認するようにしている。支障木等の特殊伐採もしており、依頼があれば東京や三重まで行くこともある。こうすれば口コミで仕事の人脈ができる。助け合い、結の精神で林業をやっている。

建築: ハウスメーカーにはできない、自然に逆らわない、自然の木の良さを生かした家づくりを行っている。地元の木を2ヶ月～半年かけて天然乾燥して使う。10年位前までは地元の木で家を建てることもっとよくあった。よその山で木を伐らせてもらい、伐採の費用はもらわずに伐った材をもらうこともあった。物々交換のようなもの。

製材: 三宅林業を立ち上げてから5年後、林業だけでは食べていけないと考え製材も手がけるようになった。やり方は丁稚奉公に行ってみよう見まねで覚えた。

ストーブ用の薪の生産: 名古屋、大府、瀬戸などの個人向けに、カナギ(広葉樹)の薪を販売している。長男の勤める設計事務所で薪ストーブのある家を建てた施主にも提供している。

キャッチフレーズ

木は自然の贈り物、十人十色の木を生かす

会のモットー(何を大切にしているか)

林業: なるべく丁寧に仕事をするようにしている。(奥矢作森林塾の)大島光利さんには、「銭金抜きでいい仕事をする」と言われている。山主に少しでも多くの利益を返したい。森林組合の仕事はなるべくやらないようにしている。仕事の段取りが合わないと、負担が山主の方になってしまう。

建築: この辺りの木は東濃ヒノキと三河ヒノキの中間的な性質を持っており、赤味があって材が堅いのが特徴。矢作川の向こうでは木が変わる。建材を伐り出すのは秋の彼岸から春の彼岸までの時期。それ以外の時期に伐った材は柔らかいので市場に出してしまう。

木は自然の贈り物。木を伐ることは木の魂を頂くこと。1本の木をどう生かすかということを考える。南向き斜面の木は家の南側の柱にすると木も嫌がらない。一山千本の木を伐れば、伐った木をどこに使えばいいか分かる。木も十人十色。こういうことが分かる大工と仕事をしないといけない。今の棟梁とはあうんの呼吸で仕事ができる。木を挽く時に迷うことがあると助言してもらう。

設立から現在に至るまで変化したこと

特になし

連携している団体・専門家・自治体など

連携しているのは個人のみ。大手とつき合うとたたかれる。

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例: 小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

林業、建築、製材、ストーブ用の薪の生産

現在直面している課題

特になし。2人の息子が自分の志を継いでくれている。長男は1年棟梁について大工仕事を覚え、今は設計事務所に勤めている。次男には山仕事を教えて、大体覚えた後に大工を5～6年やっている。1985年にケガをした時、子ども2人で相談して山仕事をすると決めたという。指が動かないので薪を出荷するのに子どもを連れて行って手伝わせた。山にも連れて行き、知らない間に仕事を覚えた。

今後やってみたいこと

特になし。やりたいことはやれている。

チームオリジナルの質問

<質問内容> 林業は家業だったのですか？

<答え> 以前は百姓をやっていて、たまにアルバイトで林業をしていたが、雇い主が亡くなったので自分でやろうと思い、松井さんと2人で三宅林業を立ち上げた。

チームオリジナルの質問

<質問内容> 特殊伐採について教えてください。

<答え> 特殊伐採は年に何度か手がける。森林組合に委託すると高い。以前奥多摩で、クレーンで高いところに乗って伐採する空師(そらし)の仕事振りを見て、自分もやろうと思った。人がやっているのを見て覚えた。先頃、旭で伐った樹齢400年の巨木は、自分の前に3人の人が伐るのを断念した。伐採した木材は名古屋の神社をつくるために使われた。ワイヤーをかける時に間違えると伐った木に挟まれるので大変危険。大きい木は上から玉切りしていくが、一番お金になるように伐る。博打のようなもの。いっぺんに段取りする必要があるので疲れる。

その他、伝えたいこと

- ・自分の体で覚えたことは忘れない。
- ・山主にはいい木を残せと言っている。それができないなら、山を大事にしてくれる人に地付きで売った方がいい。今の山主は木の性質が分からない。昔の山主は熱心で、作業も自分でやった。
- ・今の串原は若い人が元気。皆が仲良くなるといい。

写真



取材風景。いずれも右側が三宅さん



特殊伐採の様子